

「第 4 回 愛知県沿岸部における津波・高潮対策検討会」の開催結果について

1. 概要

本日午後 3 時から「第 4 回 愛知県沿岸部における津波・高潮対策検討会(以下 検討会)」が開催された。

当該地域の既往最大台風である伊勢湾台風を想定した「防護レベル」及び想定最大クラスである室戸台風級を想定した「減災レベル」の 2 つのレベルについて、地球温暖化による海面上昇のリスクを加味するなど計算潮位を変化させ、8 ケースのシナリオで実施した高潮浸水予測計算結果について検討を行った。

また、ハード整備とソフト対策を組み合わせた、津波・高潮に対する総合的な防災対策の考え方について検討を行った。

2. 検討結果

本検討会での主な検討結果については以下の通り。

○高潮浸水予測計算結果について

・「防護レベル」及び「減災レベル」で 8 ケースのシナリオにより実施した高潮浸水予測計算の結果について、了承された。

* 詳細の「高潮浸水予測図」については、防災局が行っている地震・津波の被害予測結果と合わせて、平成 25 年 6 月頃に公表する予定。

○沿岸部における総合的な防災対策について

<主な総合的な防災対策(案)> *海岸管理者に関連するもの

① 被害抑止 (主にハード整備)

・高潮対策と耐震対策の着実な実施、水門・陸閘門の自動化 等

② 被害軽減 (主にソフト対策)

・高潮浸水予測図の作成・提供、ハザードマップ作成支援 等

③ 災害情報 (主にソフト対策)

・積極的な情報発信(地域メール,リアルタイム情報[カメラ画像]) 等

・「減災レベル」の災害に対応していくためには、地域特性を踏まえながら、従来から実施している「ハード整備」の推進に加え、ハードを補完する「ソフト対策」の充実が重要である。

・「自助」「共助」を促す「公助」のソフト対策を推進していく必要がある。

(別紙「第 4 回 愛知県沿岸部における津波・高潮対策検討会 検討会資料」参照)

3. 主な意見

委員からの主な意見は、以下のとおり。

・ 6 月の浸水予測図の公表に向け、引き続き、高潮浸水予測計算の精査を行うこと。

・ 住民が情報を受け取り、自ら考えて行動ができるように促す施策が重要である。

・ 減災レベルの浸水区域は広範囲であり、住民主体での避難には限界があるため、行政による広域避難計画が必要である。